

第12回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時・場所	令和3年3月21日(日) 14:30~16:00
出席者	委員 14名(うちWEB参加8名)、1名欠席(資料1 熊野川懇談会委員名簿参照) 河川管理者等 7名(うちWEB参加5名)

第12回熊野川懇談会が開催され、第11回熊野川懇談会での主な意見と回答、「明日の熊野川整備のあり方」(H2 1.3)への追記内容について、意見交換が行われた。

第12回の議事骨子は以下のとおりである。

1. 第11回熊野川懇談会での主な意見と回答について

委員より意見のあった「この10年間における瀬切れの状況」について、河川管理者より、平成17年以降では平成26年に瀬切れが確認されたがすぐに解消され、それ以降は確認されていないと説明され、委員の了承を得た。また、「流域の利水ダムにおける現在の堆砂量と計画堆砂量との差や、ダム貯水池の堆砂による課題」について、電源開発(株)より、計画を上回る土砂流入を確認するダムがあるが、必要に応じて貯水池内の堆積土砂掘削を行っており、利水運用や治水協力する上で支障のない容量が確保でき、当面維持管理していくことのできる水準であることが説明され、河川管理者より、継続的な治山・砂防等の対策や上流河川での堆砂排除を流域の関係者間で連携して今後も実施していきたいとの考えが補足説明され、委員の了承を得た。

2. 「明日の熊野川整備のあり方」の追記内容について(委員からの主なご意見)

- 多数の斜面崩壊、土砂流出が発生し、と書かれているが、これに加えてその後に草本群落ができ、これにより鹿の個体数が増加し、さらに鹿が地表面を攪乱することで土砂流出が起きる。単に斜面崩壊、土砂流出が発生することだけを問題とせず鹿の問題としても加えていただきたい。
- 川の掘削は、どこまで行うのか。河原がなくなってしまうという話を聞いたが、速玉大社の横の河原は中世以来、舟が付けられた港として重要な景観を持っており残して欲しい。
- いくつかのダムで堆砂が進んでいるが、今後、総合土砂管理の一環として下流へ適切な土砂量を流す場合、どれくらいの供給量が適切なのかを調査研究することが必要ではないか。
- 国管理区間以外の区間においても整備計画を整合させていく必要があるというご意見があったが、国交省の管理区間が5kmまでとなっており、掘削する場所がそれ以外のところが多い。県管理区間を含めて上下流一体となった整備を進めていくということだが、それをどの程度まで意識していけるのか、そういう事も具体的に示して頂きたい。また、国交省の管理区間をもう少し伸ばして頂く訳にはいかないのか。
- 山林崩壊では、皆伐が一番問題だと思う。大規模な皆伐を行い、その後何も植林せずに裸地化の状態にしておくとも山林崩壊、土砂流失が発生する。林業と自然環境の両立を図るような事を進めないといけない。
- 他の機関との連携について、熊野川では電源開発(株)が平成23年の台風の後で相当にそのダムの運用の仕方を変えておられて、かなり治水に協力した運用を既に行っており、どのような操作をしているかの理解を流域全体で深めるべきであろうと思う。その上で、新たに水位予測技術を導入するなど新しい技術がないと中々これ以上先に進む事が出来ないと思う。更にもっと治水、利水協力しようとする為に新しい技術を導入する事を考えて行く事を追記版に記載すればよいと思う。
- 治水、利水、社会環境、自然環境のそれぞれの項目内だけで考えるのではなく、流域全体で見れば他項目にも繋がる問題等があるため、そういった事を説明できるようにした方がよいのではないか。
- 平成23年の紀伊半島大水害以降に濁水対策が進められて濁度は低減傾向にあるが、まだ平成23年以前の状態には戻っていないというのが現状だと思う。濁水の原因となる土砂の流出抑制や河道での濁水対策を総合的に流域全体で考えることが必要だと思う。

- 各項目の中には、実は縦の糸と横の糸ってというような上から下まで繋がる課題もあるので、共通するものについては流域全体の検討項目として追加してはどうか。
- 土砂管理などの問題は上流と下流、国と県や市町村、事業者が連携して取り組むことが重要であり、その体制を整えることが大事である。
- 今後検討された方が良いと思うのは、シナジーがある項目とコンフリクトがある項目っていうのを上手くリストアップし、連関表みたいのを作ればよいと思う。シナジーが多いような項目は積極的に進めていけば良いし、コンフリクトがあるような項目、例えば掘削と環境生物の話などは腰を据えて話合う必要がある。上流から河口及び砂浜までの全体像とその中でシナジーがあるものとコンフリクトがあるものを上手くリストアップして関連を掴んでいくことが大事である。

3. その他

(ニュースレターの配布)

- 第12回熊野川懇談会のニュースレターは第11回熊野川懇談会ニュースレターに記載されている閲覧資料設置場所に設置するが、配布は行わないこととなった。

資料1 熊野川懇談会委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	専門分野	所属	備考
い い ひろゆき 井伊 博行	水循環、水質	和歌山大学 システム工学部 教授	WEB 参加
い す み もろと 泉 諸人	歴史・文化、 観光、林業	浦島観光ホテル株式会社 取締役 浦木林業株式会社 代表取締役	
か し き たかみつ 加治佐 隆光	水資源工学	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	WEB 参加
き し が み みつよし 岸上 光亮	農業経済、 地域政策	和歌山大学 食農総合研究教育センター 教授	WEB 参加
きよおか ゆきこ 清岡 幸子	地域の特性に詳しい (新宮市)	元新宮商工会議所女性会 会長	
た か ま ひでき 高須 英樹	植物、生態系	和歌山大学 名誉教授 和歌山県立自然博物館 館長	
たきの しゅうじ 瀧野 秀二	水生生物、植物	元和歌山県立新宮高等学校 教諭 熊野自然保護連絡協議会 副会長	委員長代理 欠席
たしかわ やまと 立川 康人	水工学 水文・水資源学	京都大学大学院 工学研究科 教授	WEB 参加
なかしま ちよとせ 中島 千登世	地域の特性に詳しい (新宮市)	河川を美しくする会 副会長	
はやさか とよし 早坂 豊司	広報・報道	株式会社テレビ和歌山 報道制作本部局長	WEB 参加
ふじた まきはる 藤田 正治	河川・砂防、 森林工学	京都大学 防災研究所 教授	委員長
まつお なおき 松尾 直規	河川水質	中部大学 名誉教授	WEB 参加
もり のぶひと 森 信人	海岸防災工学	京都大学 防災研究所 教授	WEB 参加
やまもと しげお 山本 殖生	熊野の歴史・文化 ・信仰	国際熊野学会 代表委員 熊野三山協議会 幹事	
よこた ひろし 横田 浩	発電水力、 水源地域対策	エネルギー戦略研究所株式会社 取締役	WEB 参加